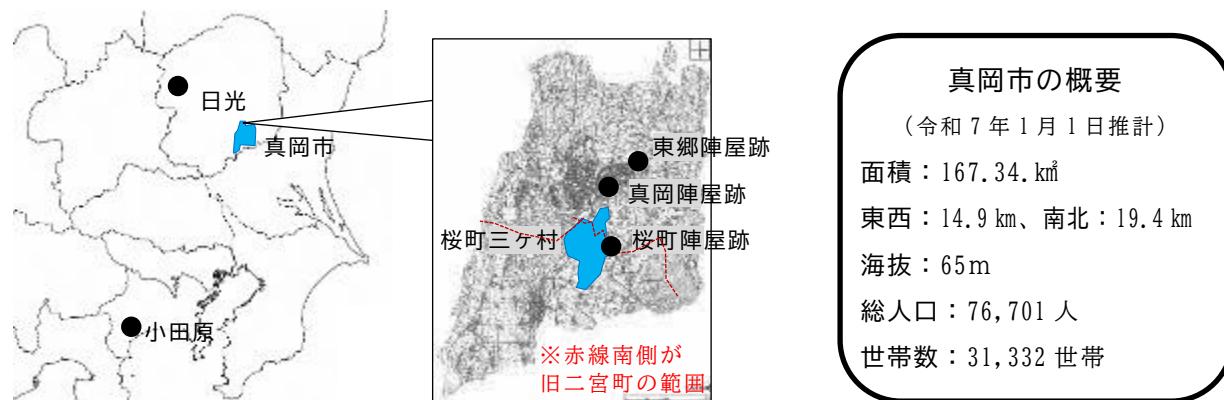


報徳仕法発祥の地、真岡
Moka, the birthplace of the HOTOKU SHIHO
安永 真一
Shinichi Yasunaga

1.はじめに

二宮尊徳（金治郎・金次郎）は、文政6年（1823年）3月、旗本宇津鉄之助が治める桜町三ヶ村に家族と共に移住しました。そして、約10年で疲弊した桜町三ヶ村を復興させると、桜町陣屋を拠点に近隣の村々の復興にも携わりました。

天保13年（1842年）に幕臣に登用され、今度は真岡陣屋・東郷陣屋手附として各地の復興にあたりました。そして嘉永元年（1848年）に東郷陣屋に移住。安政2年（1855年）に日光の今市報徳役所に移るまでの約30数年間、この真岡で藩や村の復興を行うと共に、独自の思想（報徳思想）に基づく報徳仕法を確立させました。



2.桜町三ヶ村と真岡町での復興

市内には、尊徳に関連する三つの陣屋跡（桜町・東郷・真岡）があるほか、彼が関わったと言われる道路や橋、用水堀、堰、社寺等があります。

- ・高瀬橋（高畔橋）
- ・新堀川
- ・二宮堀
- ・桑ノ川開墾地
- ・大前堰
- ・横田大堰
- ・三宮堰
- ・八本堰
- ・蓮城院
- ・塙本天神
- ・観音寺
- ・円蔵の家



国史跡桜町陣屋跡 尊徳赴任時に建てられた役所建物が残っている

3. 現代に続く尊徳とその教え

国史跡の桜町陣屋跡では、令和3年度に史跡の保存活用計画を策定しました。この時、史跡の本質的価値の再評価を行い、尊徳が実際にいた近世後期の陣屋跡としてだけではなく、尊徳という人物とその思想が、その後も時代の鏡として表れている場所と位置づけました。



明治18年建立：報徳訓の碑



昭和16年建立：桜町二宮神社（国登録文化財）



日本一のイチゴ生産は三ヶ村から始まりました



今も桜町陣屋で行われている米づくり

4. 報徳仕法の成功のカギは？

真岡では、18世紀半ば頃から農村が疲弊し始めました。真岡中心部は小田原藩の飛び地として稻葉氏、後に大久保氏の所領でしたが、18世紀後半、大久保氏は荒廃した真岡の農村を幕府に返上しました。

幕府領となった真岡では、18世紀末～19世紀初めに名代官とうたわれた竹垣三右衛門直温と岸本武太夫就美により、荒地起しや入り百姓策が行われました。また、これ以前には、越後国の熊倉伴次が荒地引請人として荒地の開発を出かけました。



文化12年建立：竹垣君徳政碑



近世末創建：岸本神社



開発地には「熊倉」の町名が残る

尊徳が行った報徳仕法と幕府が行った代官仕法の違いは何だったのでしょうか？